

2019 年度 発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた  
合理的配慮研究事業 成果報告書（I）

実施機関名（学校法人 国際学園 星槎中学高等学校）

## 1. 問題意識・提案背景

本校に入学してくる生徒は、小学校期に不登校・登校しぶりであったものが多くを占めるが、その背景には発達に課題を有する者が大部分であり、こうした特徴を持つ生徒を育む環境においては、本人・学校・家庭が三位一体となって連携することが重要である。しかしながら、通常の学級においては、多くの生徒が在籍しており、生徒一人一人のペースを観察し、それに合わせて関わることもなかなか困難な状況である。

そうした環境を是正し、生徒一人ひとりが個々の能力に応じて学ぶことのできる学習環境を保障するため、星槎中学校、星槎高等学校では一人ひとり全ての生活面・学習面に合わせた個別指導計画を作成して、それぞれの生徒に必要な合理的配慮を保護者と共有し更新することで、個の状況を重視した教育を実施している。

具体的には年間を通じて、4回の担任との面談により学習面や対人面における困難さを把握し、またできたことに対してその場でポジティブなフィードバックを行い、動機づけする指導や、同じく年4回担任と保護者による、保護者面談を実施し、保護者との連携を図り、必要があれば医療機関との連携も図っている。必要な支援を全校をあげて行うとともに、全職員による終礼で、全生徒の行動面、学習面での振り返りを毎日行い、情報を共有し翌日に反映させるようにしている。

一方で、教職員の過重労働の問題に対して、働き方改革を行い、個人のワークライフバランスを整えていくことが急務となっている。また、来る Society5.0 の時代においても、上記のような困りのある生徒が安心して学校生活を送り続けるためには、さらなる情報共有のスリム化、スピード化が重要となってくる。

本校では平成 26 年度および平成 27 年度には、発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業に採択され、教員の専門性を高めるための取組み及びそれを支援するシステム開発を教員と外部の専門家と協働して行っている。今回の提案はこれまでのシステムをさらに効率化し、必要な支援を必要な時に行う提案となっている。

さらにこの取り組みは、昨年は文部科学省より発表された「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて～柴山・学びの革新プラン～」の実現に寄与するものとなることを確信している。

## 2. 目的・目標

情報共有のシステムのバージョンアップによる教員と保護者の協働性の向上をはかり、支援教育の趣旨である生徒個々の特性に応じた自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、生徒1人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、現在の活動をより進化させた、教育活動及び教育活動の環境整備を行う。

上記活動をもって、現在までの取り組みを基礎として発展させた、様々な個性を持つ生徒が成長し社会の構成員として自立できるようになるプログラム立案能力育成のための教員の資質向上や環境整備のモデル化を図り広く社会に発信することで、多様性のある人間による社会構成の必

要性と重要性の社会的認知を進めることが目的である。

またさらに、この取り組みの今後の ICT および AI 社会における支援教育の礎とすべく、研究を行うものとする。

### 3. 主な成果

個別指導計画の作成にあたり、これまで十数年間蓄積してきた発達障害の可能性のある生徒の特徴及び特性のデータ（心理検査データおよび行動観察データ）とその生徒に対してどのように関わるか、アプローチするかなどの対応事例の集約データを結びつけたことにより、教員の経験値をデータ化し、生徒一人ひとりに合った最適な関わり方を提案できるシステムのバージョンアップを行った。これまでのデータ量（生徒の特徴×教員の関わりデータ）は約 18,000 件となっており、まさに教育ビッグデータとなっている。

下記にも示すように、タブレット型端末を導入し、場所や時間を選ばず、情報入力および情報確認が可能になったことにより、生徒を待たせることなくジャストインタイムで支援することが可能となった。

これまで、不登校により学校生活に支障のある生徒の登校状況や登校時の健康観察記録、また保健室への来室記録は記録されていたが、出席簿や健康観察記録簿、保健室来室記録用紙などに記載されていた。それぞれの教職員も各場面で、親身に関わり、体調面だけではなく心の状況も細かく観察し記録していた。しかしながら、それまでの情報共有は、紙面での記録を挟むことで即時性がなくなり、教職員が情報共有するかの判断にゆだねられてしまうことも多く、生徒の必要なタイミングでの支援を行えないこともあった。この度、タブレット型端末が導入されたことにより、登校前の学校宛の家庭からの連絡や、ホームルーム時の健康観察、保健室来室時の観察記録を全て一連に繋げて確認することで、校内の教職員を共通認識の下で絶え間ない支援を行うことが可能となった。

さらに、日常関わることの少ない生徒の表情や行動に変化が見られたときに、これまで記録されたデータが時系列で確認できるようになったことは、非常勤教諭や管理職員にとって関わる際の支えとなるであろう。

### 4. 拠点校における取組概要

① 発達障害の可能性のある児童生徒のつまずきや困難な状況の認識・理解及び、適切な実態把握による合理的配慮の提供に関する研究

(イ) 通常の学級担当教員が児童生徒の実態把握に基づき、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を効果的に活用し、合理的配慮の実践を行う研究

具体的には、教員にタブレット型端末を配布し、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を効果的に活用するため、本学の『IEP 作成システム』及び『Web 情報共有システム』をタブレット型端末に対応させる。

現在、本校の IEP 作成システム及び Web 情報共有システムは「個別の指導計画」の作成、「終礼※における生徒情報」の共有になくてはならないものとして機能している（※生徒下校後、生徒情報を共有するミーティング）。特に行動・対人面や学習面に不安を抱えやすい発達の障がいのある生徒については、全ての教職員が、タイムラグなくその生徒に関する情報を共有し関わることを望ましい。

しかし、現行の IEP システム及び Web 情報共有システムは職員室の PC で使用することを想

定して開発したものであることから、教員は授業や面談といった生徒とのかかわりの際、紙に記載した内容をその日の終わりに職員室の自席にてシステムに入力し、情報の利用も自席のPCで参照するといった運用となっていた。

これをタブレット型端末に対応させることで、職員室以外にいる場合でも気になった情報にアクセスし、生徒の支援をしやすくする。また、終礼で収集している全生徒の行動面、学習面での振り返りや問題行動などにアクセスしやすくすることで、教員が気付きやすい環境を整える。終礼で登録しているデータは生徒毎に注意点などの履歴が追えるものとなっていることから、生徒の実態把握がしやすく、指導における合理的な配慮を行うための環境整備を行う。これらの施策から教員がより多くの気づきを得られたかどうか、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を効果的に活用できたかを終礼データへのアクセス時間や件数、生徒に対する注意点のデータ登録数から定量的な検証を行います。また、協議会においては教員からヒアリングを行い、定性的な面からも検証を行うものとする。

- ③ 発達障害の可能性のある外国人の児童生徒十分な支援が受けられず不登校により学校生活に支障をきたしている発達障害の可能性のある児童生徒に対する合理的配慮の提供に関する研究  
(キ) 不登校により学校生活に支障をきたしている発達障害の可能性のある児童生徒に対する合理的配慮に関する研究

これまで十数年間蓄積してきた発達障害の可能性のある生徒への対応事例の集約である終礼データを活用する。

生徒の出欠席データを教員のタブレット型端末で登録できるようにします。出欠席データとIEPデータ、終礼のデータ、他さまざまなファクター、をAI技術で解析し、出欠席と生徒の行動面、学習面から相関関係を探し、教員に対して通知するなど、データを活用した先回りの対応を研究する。その結果、生徒に対する配慮等の向上、教員の働き方や過重労働に対する対策につなげる。

※ ここでいうAIとは、内閣府の「人間中心のAI社会原則検討会議」で定義されている「高度に複雑な情報システム一般」として扱っている。

## 5. 今後の課題と対応

これまで集積されたデータの分析と今回の事業より集積可能となった日々のデータを紐づけ、生徒のつまずきや不安感など、先回りして気づくことのできる機能を充実させることが重要である。合わせて、個々の特徴をさらに客観的にアセスメントするための尺度を複数検討する必要がある。これらのシステム開発を継続し、発達のアンバランスさの有無にかかわらず、個別最適化が可能な環境を創造していきたい。

## 6. 拠点校について

(中学校)

指定校名：星槎中学校												
	第1学年				第2学年				第3学年			
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数	
通常の学級	84		3		80		3		80		3	
特別支援学級	0		0		0		0		0		0	
通級による指導 (対象者数)	0		0		0		0		0		0	
	校長	副校長 ・教頭	主任教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別 支援 教育 支援 員	スクー ルカウ ンセラ ー	その他	計
教職員数	1	2	7	16	3		7	4		2	2	42

※特別支援教育コーディネーターの配置人数：

※特別支援学級の対象としている障害種：

※通級による指導の対象としている障害種：

(高等学校)

拠点校名：星槎高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		生徒数	学級数	計
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	普通科	101	4	109	4	97	4					
定時制												
通級による指導 (対象者数)												
	校長	副校長 ・教頭	主任教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別 支援 教育 支援 員	スクー ルカウ ンセラ ー	その他	計
教職員数	1	2	8	19	2		5	4		2	3	44

※特別支援教育コーディネーターの配置人数：

※通級による指導の対象としている障害種：

## 7. 問い合わせ先

組織名：学校法人国際学園

担当部署：星槎高等学校